

ふるきよの、玄ん殿のさし圖をみるに、かはやといふはみえず、されど必下屋などにつゞきてあるべし、なくてはいかゞはせん、又主人などは、おほつぼしのはこを用ひて、近習の女房とり傳へて、ひすまし、長女、廁人等にわたすなるべし、常夏の巻にみえしは、女御のおほつぼをとる事なり、貞觀式には、他行に清器をからひつに入れてもたしめ、ひすまし等供奉すとみゆ、上代のいまと異なる事おもひの外なり、

〔儀式〕春日祭儀略○中

清器韓櫃一荷在中路次之、今長二人相分在後從之○中略、清器韓櫃在中路次之、今長二人相分在後從之、廁人掃守在道左右次之○下

〔延喜式〕内匠朱漆器略○中

雕木一脚、長一尺七寸、廣一尺三寸、高九寸、徑九寸五分、樋一合、高九寸、徑九寸五分、虎子一合、料漆二升四合、雕木八合、樋一升、石見綿一斤、絹一尺五寸、貫布八尺、調布一尺五寸、掃墨一升、油二合、伊豫砥半顆、青砥半枚、炭八斗、單功十七人、彫木六人、樋八人、虎子三人

〔伊勢初齋院裝束〕略○中

大壺一合、料漆四合、絹一尺、綿六兩、細布一尺五寸、掃墨三合、燒土五合、單功四人、雕木一脚、長一尺四寸、廣一尺四寸、高八寸、樋一合、高七寸、徑八寸、料漆一升八合、絹一尺五寸、細布三尺、掃墨六合、燒土一升、單功十一人

〔延喜式〕五齋宮造備雜物略○中、彫木一具

〔永昌記〕天治元年四月二十三日、伊勢初齋宮禊日也、中抑行列之中有樋、臺、稱、彫木、令行列云々、此事如何、後日失也、不具之由重實示之、

〔類聚雜要抄〕二調度一被加以前御調度外御物事略○中

虎子宮、其體四方、下在牙緣、蓋也、又有臺云々、